

学校関係者評価委員 (敬称略)		
委員長	西原達次	公立大学法人九州歯科大学 理事長・学長
副委員長	堀 修	福岡県立小倉商業高等学校 校長
委員	甲山博美	北九州市商業総連合会 会長
委員	大森弘太郎	九州医療スポーツ専門学校同窓会 会長

評価の意味

- 4：適切に対応している。課題の発見に積極的で、今後さらに向上させるための意欲がある。
 3：ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取り組みが期待される。
 2：対応が十分ではなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取り組む必要がある。
 1：全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

基準1. 教育理念・目的・育成人材像等

平均評価	委員氏名	評価	意見	自己評価
3.7	西原達次	4	明確な教育理念・目的・育成人材像が設定されていることを確認することができた。 【ヒアリング時の確認事項】 ① 1-1-3 ・理念等の達成に向けて特色ある教育活動に取り組んでいると記載されているが、どのような教育活動もしくは学科での教育が展開されているかをお知らせいただきたい。 ・主だった特色ある職業実践許育を教えてください。 ② 1-1-4 中期的（3～5年程度）視点で考えると、18歳人口の減少が最大の課題となることが想定されるが、それに向けての対策を教えてください。	4.0
	堀 修	4	渋沢栄一が説いた「士魂商才」を発展、昇華させた「士魂医才」の教育理念は、武士道に立脚した道徳を根底としている。それは、嘘や不道徳、不誠実がなく、世の中のために尽くすことを基盤とした人格形成・人としてのあるべき姿を目指すことを本懐とし、加えてプロフェッショナルな医療人としての技を磨くことは大変優れたものとして評価できる。	
	大森弘太郎	3	コロナ禍でイベントや対面での対応に関して制限がでている状況のなかで、オンラインなどソーシャルディスタンスに取り組んできていると思う。 時代に沿った対応を行っている。	

基準2. 学校運営				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.3	西原達次	4	令和2年度の基準2以降の諸項目において、check & action の視点で記載されていて、学校運営の改善を図る意欲を感じることができた。 一例をあげると、2-6-1及び2-7-1において、PDCAを意識した書き振りで、check & actionが明確に示されているので、次年度の成果報告が期待される。 【ヒアリング時の確認事項】 可能であれば、基準2の自己評価のなかで重要案件と判断した項目に関係する参考資料を提示していただきたい。	3.4
	堀 修	3	学校の教育理念だけでなく、法人の理念も調和した上で、主体的な学校運営ができています。 特に、職員の情報共有を徹底し運営体制の一元化を図っている。毎年、事業計画の見直し、3年先まで見据えた予算書作成や情報のシステム化の定着を推進していることは評価できる。 データ更新等のファイルバックアップ増加対策とサーバの管理体制の強化に課題がある。	
	大森弘太郎	3	学校運営に関して、職員・教員等の学生に対する取組 学校の運営方針など、理事長からの配信や日報システムを活用して取り組んでいる状況もあるので、引き続き情報共有などを行って学校運営に取り組んでいければと思う。	

基準 3. 教育活動				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.0	西原達次	3	教育活動全般が3つのポリシーに準じて、各学科の自己評価が適正に記載されていることが確認できた。 その一方で、自己評価者間の物差しの違いから各学科の3と4の評定の違いを根拠資料が乏しいなかで判別することができなかった。このような場合、学科長の上位者により、内部質保証という視点で検証して、平準化されていれば、各学科をフェアに評価できるということから、ぜひ、今後の課題として検討していただきたい。 【ヒアリング時の確認事項】 本基準において、学科によっては評定1もしくは2の項目が散見された。これが、学科特有の問題なのか、もしくは、学校全般の改善策によって改善されるものなのかについてお聞きたい。	3.3
	堀 修	3	昨年度の自己評価の課題に対して各学科で積極的に取り組んだ結果、前年より0.1ポイント評価が下降している。 今後、外部の関連業界との連携による人材採用促進、教員の研修・研究のさらなる充実を図ることでのスキルアップ体制の確立が望まれる。 また、全学科に共通するキャリア教育に関する方針を明確にし、各学科での共有を図るとともに、外部連携等によってキャリア教育のさらなる充実を期待する。	
	大森弘太郎	3	教育活動に関しては例年通りの実習や授業など思い通りにいかなかった点もあると思うが、教員が協力して行って、学生の授業環境などを整えていっていると感じる。 例年に無い対応で職員や生徒も急遽の授業変更などもあったと思うが国家試験などの資格取得に向けて取り組んでいけていると感じた。	

基準4. 学修成果				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.0	西原達次	3	それぞれの専門領域における資格・免許等については、チェック項目に、「目標設定」が求められていることから、この目標設定には、学校の一定の考えが反映されているものと理解している。これに対して、各学科長が自己評価しているということから、4-14-1における学科長における自己評価の根拠資料として、対象年度当初の達成目標及び成績結果を一覧表にして提示していただけると、各学科の自己点検評価の客観的評定の妥当性を判断できるので、本件、可能であれば一覧表による情報提供をお願いしたい。	3.1
	堀 修	3	昨年度の自己評価の課題に対して、資格・免許取得率及び就職率の向上を目指した取組は評価できる。 社会が求める多様な学科を有している観点から、今まで以上に卒業生の就業状況についての情報把握に努め、アフターフォローにも万全である学校であるという評価を確固たるものにして欲しい。	
	大森弘太郎	3	学部により成績や資格取得のバラツキはあるようだが 教員の先生方は生徒の学習フォローなどを考えてくれている 文面も多く、生徒が安心して学べる環境作りは出来ていると思う。 海外からの学生に関しても難しいところはあるかもしれないが 先生も一所懸命取り組んでいると思う。	

基準 5. 学生支援				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
2.7	西原達次	2	本基準「学生支援」に関しては、多くの学科で自己評価評定が低い。もし、この基準に掲げられているチェック項目と学科教員との間に、基準の捉え方に意識のずれがあった場合、自己評価のみで、学生の視点に立った学生支援の実態を把握することは難しい。 今後、18歳人口の減少を勘案すると、御校の中期的課題の解決を図るうえで、学生の福利厚生・就職支援等は学生支援の重要課題であることから、本件については、チェック項目の検討も含めて、ヒアリング時に、広い視点でのご意見を聞かせていただきたい。	3.2
	堀 修	4	キャリアサポートセンターの設置や就職支援に力を注ぐことによって、前年より0.1ポイント評価が上昇している。 前年から引き続き、組織的な進路支援体制が整ってきていることは大いに評価できるが、学科によっては担任と担当者との連携が十分でないところがある。 生徒に対して経済的支援体制を設けていること、心のケアや急病・事故に対する対応体制がとれていることは評価できる。 多様な学生の現状を鑑み、カウンセラーによる執務回数や時間を増やすことでカウンセリング体制のさらなる充実を図ってほしい。	
	大森弘太郎	2	学生の就職支援や在学時のアルバイトなど、キャリアサポートの必要性を感じるコメントも多く見受けられる。 学校として、資格取得は必須課題でその先にある就職にもサポートが充実していけば、未成年の学生を入学させた親も安心できる学校思ってもらえると思う。 就職があつてこそその専門学校とも思うので、この機会に充実したキャリアポートを期待します。 また、就労先での学生の活躍なども興味深いです。	

基準 6. 教育環境				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.0	西原達次	3	基準6の「施設・設備等」及び「防災・安全管理」については、学校運営の一環として、改善に向けて取り組んでいることを確認できた。 一方、「学外・インターンシップ等」については、各学科の諸事情やCOVID-19禍中なども鑑み判断しなければならない。本件については、例年以上に安全・安心な対応が求められたということから、広い観点に立った適正な自己評価が求められる。そのようなことも含めて、今回は総合的な判断をくだした。	3.4
	堀 修	4	昨年度の自己評価の課題に対して積極的に取り組んだ結果、前年より0.3ポイント評価が上昇している。 消防計画書を作成し、年2回の消防訓練を実施するなど法令に適合し、安心・安全な学校における整備が整っている。 鍼灸学科・スポーツ鍼灸学科においては、学外実習が十分ではなく、関連する業界との連携をより強化する必要がある。	
	大森弘太郎	2	学科により教育環境は改善点が多々見受けられる。 教員の先生方も様々な取組を考案されているようで、学生の修学レベルアップや教育環境の改善に向けて意見が出ている環境は素晴らしいと思う。 改善が見受けられる取組だと思う。	

基準 7. 学生の募集と受入れ				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
4.0	西原達次	4	今回の自己評価報告書から、適正に運営されていることを確認することができた。	4.0
	堀 修	4	昨年度の自己評価の課題に対して積極的に取り組んだ結果、前年より0.5ポイント評価が上昇している。 学生募集については、規制に基づいた活動行われており、入学選考についてはほとんどの教職員が関わって、学科別応募者・入学者数などのデータ管理も行われている。適切な学生募集と受け入れができていることは評価できる。	
	大森弘太郎	4	コロナ禍の状況で、専門性の職種手に職の考えも戻ってきたり九州から上京などが少なくなっている事もあり学生の募集に関して上昇してきていると感じる。 新たに入学希望者の面談方法など、積極的に取り組んでいる。	

基準 8. 財 務				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.7	西原達次	3	御校が学生確保を最重要課題と位置付けていることから、学生本位の教育体制強化と教育の質の向上を目指して、財務運営を推進していることを確認することができた。 2025年を目途に進められている「地域包括ケアシステム」では、北九州市でもSDGsのもとで、保健医療福祉行政の強化が求められている。そのようななか、御校が健康スポーツの推進やゼロ100ステーション化構想などをもって選択と集中を図り、医療・看護・介護の分野でも多職種連携を視野に入れた質の高い高等教育を提供することで、北九州市内の教育再編の軸になる可能性があると考えている。そこで、今からの18歳人口の減少対策という背景を踏まえ、法人として学校運営の再編を視野に入れた財務の戦略性が求められる。	3.0
	堀 修	4	学校および法人運営にかかる中長期的な財政基盤は安定しており、それに基づく適切な財務分析もできている。 健全な財務処理を継続して行って欲しい。	
	大森弘太郎	4	問題無いと思われる。	

基準 9. 法令等の遵守				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.7	西原達次	4	自己評価報告書で、基準 9 については適正に運用されていることを確認することができた。	3.9
	堀 修	4	昨年度の自己評価の課題に対して積極的に取り組んだ結果、前年より0.3ポイント評価が上昇している。 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営が行われている。 特に「教育情報の公開」においては、学校概要、教育内容、教職員について学校ホームページ等を用いて広く公開できている。今後、学校ホームページの閲覧者の側に立って、教育情報についてより理解しやすいものへと改良することを心がけている点は大いに評価できる。	
	大森弘太郎	3	生徒の個人情報など学内で管理するデータ量は年々増加していていると思う。また職員の入れ替わりなどある環境の中で、個人情報の管理や持ち運び防止など社外・社内からでも情報の管理は必要になってくると感じる。	

基準10. 社会貢献・地域貢献				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.3	西原達次	3	国際交流及び学生のボランティア活動については、学校として積極的に取り組んでいることを確認することができた。 一方、学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献については、御校単独ではなく、地元企業（産）、北九州市内大学（学）、行政（官）の連携のなかで、保健・医療・福祉・スポーツといった観点で北九州市内の諸組織との連携を期待したい。	3.3
	堀 修	4	年間を通して、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響から、対面参集型の社会貢献・地域貢献活動が困難な状況であった。今後は、社会状況に応じて、一昨年度のような高等学校が行うキャリア教育の実施（学校デパート等の催し物等）に教員を派遣するなど、積極的な協力・支援をいただければ幸いである。 また、北九州マラソンを始めとする地域社会主催イベント等においてもボランティア活動の一環として参加していた取組は大いに評価できるものであり、これらの取組をさらに継続して欲しい。	
	大森弘太郎	3	社会貢献など制限されているなかで学校法人として市への検査キットの寄付など積極的に取り組んでいると思う。 また、生徒のボランティア活動などもコロナ終息後などは積極的にチャレンジが望まれている。	

総 括		
	委員氏名	意見
	西原達次	令和2年度学校関係者評価の総括を記載するにあたり、冒頭、昨年度の提言を活かし、御校の教育の軸になる3つのポリシーを構築して、自己評価書を作成されたことに敬意を表します。さらに、今年の報告書を通じ、多くの医療スポーツに係る学科を取り纏めるために努力している姿を拝見し、さらなる改善につながればという思いから、令和2年度学校関係者評価を書き上げました。 本編の基準10項目に対する評価は記載させていただいた通りですが、多彩な学科を有する御校において、医療スポーツさらには、保健・医療・福祉の分野に人材を輩出する専門学校としての実績を自己評価書から読み取ることができました。 今後、さらなる発展に向けて、学科間の教育の平準化を図るか、もしくは、いくつかの秀でた学科を中心に高等教育機関に進化するなど、教育界を取り巻く環境を鑑みて、多面的な再編を推進することが喫緊の課題として提言させていただきます。 その一方で、次年度に向けて、現況の学科間の教育の平準化を図ることは必須と判断し、学科長クラスのFD及び教員クラスのFDを並行して進めることをお勧めします。
	堀 修	新型コロナウイルス感染症防止対策の影響で、十分な教育活動を行うことが非常に難しい1年であったといえる。このような中、学校全体として、改善点なども明確にしておき、取組は評価できる。 本年度も教育活動に支障を来す状況は十分想定できる。このことを教育改善の契機と捉え、持続可能社会において生き抜く力の育成を目指し、従来の教育体制からの変革を大いに期待するところである。 依然として複数の学科において、基準3に満たない項目も少なからず見受けられる。他の部署・学科とも連携を進めているところもあるが、データ収集・分析から見えてくる学校全体目標や各学科の目標を改めて再考し、現状に対して常に新しい取組を行うことで、さらに魅力ある「九州医療スポーツ専門学校」として今後の学生獲得に資していただきたい。
	大森弘太郎	－